

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 楠見東小 学校
校長氏名	棚田 修司
作成日	平成26年12月15日

1 教育目標

正しい人権意識を持ち、豊かな知性と情操を身につけ、健康で自主性に富み、みんなと協力して力強く生きぬく子を育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	・保護者や地域の方々との連携を深め、地域の人材を積極的に学校運営に生かす。	・思いやりの心を育てるため、人権教育・道徳教育に重点をおき取り組む。 ・自ら進んで取り組み、最後までやり抜く子どもを育てる。	・国語科を取組の柱として、基礎・基本の充実と定着に取り組む。 ・課題に意欲的に取り組み、自ら学ぼうとする力を育てる。

取組の状況【D】	・民生児童委員との懇談会を定期的にもつとともに、常に情報交換を図る。 ・総合的な学習の時間及び子どもセンター事業等に積極的に地域の人材を活用する。 ・毎月学校だよりを楠見地区全域に配布(回覧板利用)し、情報を発信する。 ・本校が会場となる「楠見地区人権講演会」を開催し、児童・保護者・地域の方々と一緒に人権に関しての研修を実施する。	・挨拶や掃除に常に取り組み、学校生活の中に自然な形で人と人の関わりを大切にする。 ・子ども見守り隊の「子育て支援ネットワーク楠見」の方々と児童の交流を図る。 ・地域の介護老人施設との交流を深める。 ・地域の老人会との交流を深める。	・iプリント及びeライブラリーの教材を学力向上のため有効活用する。 ・「東タイム」及び「チャレンジタイム」で基礎・基本の定着に努める。 ・各学年の校内授業研究に国語科を中心として取り組み、学力向上への検証を行う。 ・「家庭学習の手引き」で家庭学習の重要性を伝え、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図る。
(評価結果【C】)	・学校だよりを楠見地区全体に配布することにより、より広範囲な地域住民にも学校を知ってもらうことができた。 ・楠見地区民生児童委員との懇談会を定期的に開催することにより、気になる家庭や児童について、積極的な見守りができた。 ・「楠見地区人権講演会」を開催し、児童・保護者・地域の方々一体となって人権研修を和やかな雰囲気の中で実施でき、大変好評であった。	・朝夕の登下校時に少しずつではあるが、挨拶ができるようになってきた。また、子ども見守り隊の方に感謝の手紙を届け、喜んでもらえた。 ・介護老人施設や老人会との交流により、他人を思いやる心や人権意識の向上により効果を得ることができた。	・iプリント及びeライブラリーの教材を用い、自ら学ぶ習慣がついてきた。 ・東タイムやチャレンジタイムの活用が定着して、自然な形で児童は取り組むことができています。 ・各学年が国語科の研究授業をおこない、教職員のスキルアップになった。 ・「家庭学習の手引き」を配布することにより、徐々に保護者の理解・協力が得られてきている。
改善方法【A】	・学校開放期間に関わらず、保護者や地域住民の人がいつでも学校に来てもらえるような工夫を考える。また、学年集会についても積極的に案内をしていく。 ・地域の関係機関との連携をさらに深め、各行事等に積極的に参加する。 ・27年度は「楠見4校PTA人権研修会」を開催し、人権教育の啓発に努める。	・介護老人施設や老人会との交流により、人を思いやる心を育てる取り組みをさらに高めていく。また、コミュニケーション能力や社会性を培う取り組みを推し進めていく。 ・将来に夢や希望をもたせ自尊心を育てていく取り組みを進める。	・iプリントまたはeライブラリーによる学習の取り組みを継続する。 ・東タイム及びチャレンジタイムの取組をより活発化し継続する。 ・学力アップのため、チームティーチングや個別指導等をできるかぎり実施する。 ・各学級に在籍する特別支援が必要な児童に対して、個別カルテの充実を図る。

3 その他の課題

・各担任は一人ひとりの児童に対して、より一層丁寧な取り組みが必要とされている。すぐさま成果を期待するのは難しところもあるが、児童理解をさらに深め、情報の共有をすることで、児童にとって学校が楽しい場であるように取り組む必要がある。地域や関係諸機関ならびに和生大のスクールボランティアの協力を得るなどして、連携・連絡を密にしなが、粘り強く取り組んでいきたい。